

分野	専門分野Ⅰ －基礎看護学－	対象学年	1
		時期	前期
授業科目	日常生活援助技術Ⅰ (環境・活動) Care skills for daily Life Ⅰ	単位	1
		時間	30
		方法	講義・演習
担当教員	始業後、担当教員一覧および授業ガイダンスにて確認		
科目責任者	看護師として附属病院と他病院合わせて20年間の実務経験有		
授業概要	<p>患者の外部環境をいつも安全で快適な状態に整えておくことは、看護実践の基本である。また、活動・休息に対する欲求は人間の基本的欲求であり、安全で快適な環境のなかで満たされるものである。</p> <p>本科目では、環境と活動・休息に関する技術を学ぶ。また、看護師と対象にとって無理のない安楽な動き、援助行動の基礎となるボディメカニクスの原理を学ぶ。合わせて日常生活に支障をきたした対象に対して、看護者としての配慮など、倫理的判断をするための知識も学ぶ。</p>		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境調整技術の意義と援助方法を理解する。 2. 環境調整技術を身につける。 3. 活動・休息援助技術の意義と援助方法を理解する。 4. 活動・休息援助技術を身につける。 5. 対象の尊厳に配慮する態度を養う。 6. わからないことを自ら考え、調べる姿勢を養う。 7. 主体的に取り組む姿勢を養う。 		
評価方法	<p>終講試験 100点</p> <p>・環境調整技術 43点 ・活動、休息援助技術 57点</p> <p>※基礎看護技術統合で技術試験を行います。</p>		
使用テキスト	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅰ 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ 医学書院</p>		
参考図書	<p>根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院</p>		
メッセージ	<p>【環境調整技術】</p> <p>人と環境は密接な関係にあります。患者を取り巻く環境をいつも安全で快適な状態に整えておくことは、すべての看護実践の基本です。環境について多角的にとらえて、実践していく基本的技術を身につけていきましょう。演習中心の授業になります。自己学習や練習を積極的に取り組んで、授業にのぞんでください。</p> <p>【活動・休息援助技術】</p> <p>日常生活において環境を整えることは基本となることです。また、活動と休息のバランスをとって生活することがとても大切です。自分の生活でも意識して自己管理できるようにしましょう。</p>		

回数	単元・主題	授業のねらい	授業内容	方法	備考
1	Ⅰ 環境調整技術 1. プライバシー保護と環境調整	1. 環境とは何か理解できる。 2. 療養生活と環境について理解できる	環境とは 療養生活と環境 環境調整の必要性 病床環境の調整	講義	
2	2. 病床環境	1. 病床環境を整える目的が理解できる。 2. 病床環境を整える方法について理解できる	病床環境を整える 環境整備の目的・方法 ベッドメイキングの目的・方法 臥床患者のリネン交換目的・方法	講義 DVD	
3	3. ベッドメイキングとリネン交換	ベッドメイキングとリネン交換を実施する	ベッドメイキングとリネン交換のデモンストレーション リネンの種類とたたみ方、環境整備の必要物品と方法、ベッドメイキングの必要物品と方法 臥床患者のリネン交換の必要物品と方法	講義 デモンストレーション	

4	4.ベッドメイキングの実際	ベッドメイキングを実施する	しわがなく崩れにくいベッドの作成、クローズドベッドからオープンベッドへの整え方 ボディメカニクスの活用	演習	
5	5.臥床患者のシーツ交換と環境整備の実際	臥床患者のシーツ交換と環境調整を実施する	対象の生活しやすさを考えた環境調整 対象に負担をかけないリネン交換の方法、清潔なリネンと汚染されたリネンの取り扱い 対象への配慮	演習	
6	Ⅱ 対象に応じた環境調整技術の実際 1.統合演習 (リネン交換と生活環境調整)	対象の状態や状況に応じた病床作成と環境調整援助の実際を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 対象が生活しやすい生活環境調整 対象の症状や状況に応じた安楽な臥床患者のリネン交換の援助 対象の思いに配慮したコミュニケーション 一日常生活援助技術Ⅰ（活動・休息）・共通基本技術Ⅱと合同一	演習	
7	Ⅲ 活動・休息援助技術 1.ボディメカニクス	活動・休息を促すことの意義や援助方法について理解する	活動・休息を促す意義 同一体位による身体への弊害 ボディメカニクス技術の基本 安静の意味と意義、体位の種類	講義	
8	2.体位保持・体位変換	体位と移動に関するアセスメント、体位保持の工夫と援助ができる	体位の種類、体位の身体的影響、 体位変換の目的、 安楽な体位保持の援助方法と工夫 体位と移動に関するアセスメント、 体位変換の体験 1)水平移動 2)上下移動 3)臥位から側臥位 4)臥位からファーラー位	講義 デモン ストレ ーション	
9	3.車椅子移乗・移送の実際	車椅子移乗・移送ができる	車椅子各部の名称、点検方法、 車椅子移乗・移送の援助方法、 (臥位から端座位、車椅子移乗、車椅子移送) ボディメカニクスの活用方法、 安全・安楽に援助を行うための工夫、 援助時の配慮した声かけ、観察の視点	演習	
10	4.ストレッチャー移乗・移送の実際	ストレッチャー移乗・移送ができる	ストレッチャー各部の名称、点検方法、 ストレッチャー移乗方法 (3人による移乗、バスタオルを用いた移乗) 援助時の配慮した声かけ、観察の視点	演習	
11	5.睡眠・休息を促す援助	睡眠・休息を促す援助について理解する	睡眠の意義と目的、睡眠の種類と役割、 睡眠・休息のアセスメント、 生体リズム（サーカディアンリズム）、 睡眠を妨げる因子、睡眠障害の種類、 睡眠・休息を促す援助方法	講義	
12	6. 体位保持、体位変換、車椅子移乗・移送の実際	体位保持、体位変換、車椅子移乗・移送ができる	ボディメカニクスを活用した体位変換、 ボディメカニクスを活用した安全な車椅子移乗、 安全な車椅子移送、安楽な体位変換、 援助時の配慮した声かけ、観察	演習	

13	IV対象に応じた活動・休息援助の実際	対象の状態や状況に応じた車椅子移乗・移送、体位変換援助の実際を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・対象の力を活かした安全・安楽な車椅子移乗・移送の援助 ・対象の症状や状況に応じた安楽な体位変換・体位保持の援助 ・対象の思いに配慮したコミュニケーション 	演習	
14	1.統合演習 (車椅子移乗・移送) 2.統合演習 (体位変換)				
15			終講試験		